

【評価項目】

- 継 続：現時点では現状の取組を継続すべきとするもの
- 継続発展：現状の取組を継続しつつ、拡充発展すべきとするもの
- 見 直 し：現状の取組から方向転換すべきとするもの

基本目標1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

具体的な施策項目		総合戦略における 重要業績評価指標 (KPI)			KPIの現状認識		施策評価(案)		担当部			
							評価	評価の視点				
ア	結婚、妊娠、出産、育児への総合的な支援	子どもたちが健やかに成長していると感じる市民の割合(市民アンケート結果)(%)			実績値は目標に対して下回ってはいるが、産後ケアの非課税・生保世帯の利用料無償化、医療費無償化の対象拡大、医療的ケア児の受入体制の強化、子どもの居場所づくり補助金の制度拡充などにより、支援状況の改善を図ることにより、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。	継続 発展	依然として物価高騰による家庭への負担は続いており、子育てへの不安感が大きくなる中において、子育て世代が安心して将来展望を描けるよう、情勢の変化や多様なニーズに応じた子育て環境づくりが求められる。同時に、子ども基本法や子ども大綱を受け、「子どもまなまか社会」の実現を目指して策定した「旭川市子ども計画」に基づき、各種取組を進めていく必要がある。	子ども・女性・若者未来部				
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値								
		54.0 (令和5年度)	52.3	70.0								
		あさひかわ縁結びネットワークが主催する婚活イベントの参加者満足度(アンケート結果)(%)										
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値	実績値は目標に対して、下回っているものの、出会いの機会の提供として、毎年、内容や時期を変えて婚活イベントを開催しているが、令和7年度の参加者満足度は基準値より低い状況であることから、更なるイベントの充実を図ることにより、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。	継続	参加者アンケートには、「開催回数を増やしてほしい」、「また参加したい」などの声が寄せられているため、参加者アンケートや他市の開催例を参考にしながら、引き続き、婚活イベントを開催することで目標達成につなげる必要がある。	市民生活部				
	83.8 (令和6年度)	81.0	85.0									
イ	安心して学べる教育環境の充実	子どもたちへの教育環境が充実していると感じる市民の割合(市民アンケート結果)(%)							子どもたちへの教育環境が充実していると感じる市民の割合の指標値は、令和3年度が27.0%、令和5年度が27.3%、令和7年度は27.0%と、27%台で微増、微減の状態が続いており、現状では、最終年度の目標値の達成は難しい状況である。教育環境の充実を着実に進めるため、目標値の達成に向けた取組を切れ目なく実施するとともに充実させる必要がある。	継続 発展	スクールカウンセラーの相談・配置時間の充実が求められており、派遣回数を増やす必要があるほか、特別支援学級在籍者数が増加していることによる補助指導員数の拡充や指導体制の見直し、ALTや外国語活動サポーターを増員し、派遣回数を増やすなど、子どもたちが社会で自立して生きていく力を培う教育の推進が必要である。	学校教育部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値								
		27.3 (令和5年度)	27.0	42								
		「ワーク・ライフ・バランスが実現できている」と思う市民の割合(市民アンケート結果)(%)										
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値	実績値は目標に対して、順調に推移しており、最終年度目標値についても概ね達成できる見込みである。男女とも「実現できていない」については「長時間労働」が多く、次いで男性は「職場の理解がない」、女性は職場や家庭における男性の意識の持ち方」と回答があり、企業側の体制や意識を大きく変えていく必要がある。	継続 発展	長時間労働の改善には事業者側の変化が求められるが、市内事業者は中小企業が多く、意識変革だけではワーク・ライフ・バランスの推進に対応しきれないため、従来の啓発活動に加え、DXなど事務量削減につながる具体的手法の紹介や、テレワークなどの新しい働き方を提案するなど、企業が取り組みやすい環境を整備することにより、目標達成を目指す。	子ども・女性・若者未来部				
	16.8 (令和5年度)	23.04	26.5									

基本目標2 新しい人の流れをつくり、留まれる中核拠点を創出する

具体的な施策項目		総合戦略における 重要業績評価指標 (KPI)		KPIの現状認識		施策評価(案)		担当部
						評価	評価の視点	
ア	移住(U/Iターンを含む)に関する 総合的な環境整備	移住相談会や交流会などの参加者数 (累計数)(人)		実績値は目標に対して、順調に推移しており、首都圏 で開催された移住相談イベントへの出展や、各種セミ ナー、連携中枢都市圏合同イベント等を開催すること で、幅広く移住関心層への訴求を行ったことによる成 果が出ていることから、最終年度目標値についても概 ね達成できる見込みである。		継続	今後も、移住等検討者の自己実現を図るためのサ ポートを充実させつつ、担い手不足等の地域課題と移 住等検討者のマッチングを図るための取組を進める 必要がある。	都市振興部
		基準値	令和7年度 実績値					
		—	491					
		企業情報提供サイトを活用して旭川市 内に就職した人数(累計数)(人)		実績値は、目標には届かない数値であるもの、地元 企業の魅力や情報を紹介する旭川市企業情報提供 サイト「はたらくあさひかわ」を改修し、利用者が増加 しており、就職者数は増加する見込みがあるため、最 終年度目標値についても概ね達成できる見込み。		継続	地元企業の魅力や情報を紹介する旭川市企業情報 提供サイト「はたらくあさひかわ」の運営、まちなかしご とプラザでの相談業務を通じて引き続き移住・定住に 係る施策とも連携しながら取組を進め、人材確保を促 進する必要がある。	経済部
		基準値	令和7年度 実績値					
		—	51					
イ	産学官連携と大学等の活性化を 通じた若者の地元定着の促進	市内に就職した新規卒業生の割合 (%)		実績値は目標に対して、下回ってはいるが、全国的に 売り手市場である雇用情勢により市外への就職が増 加したと推測される。奨学金返済補助事業の連携企 業数の増加や、はたらくあさひかわの改修により、地 域企業の魅力をさらに幅広く発信できる見込みである ため、最終年度目標値についても概ね達成できる見 込み。		継続 発展	今後、若者の地元就職を促していくために、特に高校 生に対して旭川市企業提供情報サイト「はたらくあさ ひかわ」の活用や市内就職者に対する奨学金返済補 助事業などを継続して実施することで、移住政策と同 様に本市への就職を促していく必要がある。	経済部
		基準値	令和7年度 実績値					
		42.3 (令和5年度)	41.3					
ウ	地域の特性を生かし、時代に即し た企業誘致の促進	企業立地件数(累計数)(件)		実績値は目標に対して、順調に推移しており、道内各 地へのアクセスが良好で、農林水産物の調達に優位 性を有しているほか、自然災害が少ないなどの地理 的特性を背景に、木工・食品加工業者や物流関連業 者の立地が増加傾向にあることから、最終年度目標 値についても概ね達成できる見込み。 また、首都圏との良好なアクセスや低廉な賃料に加 え、令和5年度に新設した進出支援補助金も奏功して IT関連企業の立地も堅調に推移している。		継続 発展	動物園通り産業団地の分譲が順調に進んでおり、企 業立地の受け皿となる産業用地の不足が懸念される ことから、次期産業用地の造成に向けた調査・検討を 行う必要がある。 また、少子高齢化・人口減少が加速する中、人材確保 が企業の地方進出時における重要な要素となるな ど、継続的な企業立地に向けて、企業ニーズに合わ せたソフト面での支援を強化する必要がある。	経済部
		基準値	令和7年度 実績値					
		—	9 (令和6-7年度 累計)					

エ	スポーツの振興による地域の活性化	国際・全国等スポーツ大会数(各年度件数)(件)			令和7年度はヴォレアス北海道やバスケットボールWリーグの公式戦や、カムイスキーリンクスでは、全日本ジュニアスキー選手権大会が行われるなど、目標値を上回っており、最終年度も達成する見込み。	継続	スポーツの振興による地域の活性化には、行政と地域の競技団体、受入れ・宿泊施設等が連携しながら、取組を継続する必要がある。	観光スポーツ・シティプロモーション部
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		18 (令和5年度)	25	22				
		スポーツ合宿誘致者数(各年度人数)(人)			実績値は目標に対して、下回ってはいるが、合宿誘致者数は、団体競技の合宿受入れ状況により人数が左右されることから、目標値の達成可否にばらつきがあるもの、令和7年度は新たにデフリンピックの陸上日本代表の合宿が行われるなど、今後も取組を積極的に進め、最終年度までの目標達成を目指す。	継続	スポーツの振興による地域の活性化には、行政と地域の競技団体、受入れ・宿泊施設等が連携しながら、取組を継続する必要がある。	
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		6,045 (令和4年度)	3,724 (R6年度)	6,285				
オ	観光客の滞在とリピート率増加に向けた街全体の魅力向上	観光客のリピート率(%)			実績値は目標に対して、下回ってはいるが、昨年度に比べ一時的にリピート率は上昇。観光入込客数自体も増加していることから、継続的なPRの実施等により本市の魅力を発信することで、最終年度までに目標を達成できる見込み。	継続	大雪カムイミントラDMOと連携し推進している、自然と都市機能を最大限に生かした季節を問わず通年で楽しむことができる「マウンテンシティリゾート構想」を基本とし、スキーやスノーアクティビティなどの冬季観光のPR実施や都市型スノーリゾートの推進により、スノーリゾート地域の構築に積極的に取り組んでいることから、引き続き取組を継続する必要がある。	観光スポーツ・シティプロモーション部
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		58.7 (令和5年度)	60.1	66.0				
		本圏域を訪れる観光客の旅行消費額(一人あたり)(千円)			実績値は目標に対して、大きく下回ってはいるが、インバウンド観光客の一人あたりの観光消費額は113千円と目標値を上回っている、一方、物価高騰による節約志向などから国内旅行者の一人あたりの観光消費額は64千円と大きく低下した。今後の為替や物価、燃料価格などの影響もあるが、インバウンド観光客の誘客が伸びていることから、最終年度までに目標を達成できる見込み。	継続	道北地域のスポーツ・アウトドア環境や、地域に根差した生活文化などをテーマとした個人向けの体験観光の充実を図る現在の取組の継続が、国内外観光客の更なる増加に当たって重要となるため、引き続き取組を継続する必要がある。	観光スポーツ・シティプロモーション部
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		110 (令和5年度)	73	110				
		冬期(12-3月)観光客宿泊延数(各年度泊数)(千泊)			実績値は目標に対して、順調に推移しており、冬期の宿泊延数は過去最高となったインバウンド観光客の誘客による影響が大きく、国際政情や燃料費用などによる航空機への影響に注意しながらも引き続き維持・伸張を見込んでいるため、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。	継続	欧米豪を中心として北海道の冬季体験型観光にさらに注目が集まっていることから、スキーやスキー以外のコンテンツを含む冬季体験観光のPRや、大雪カムイミントラDMOと連携した都市型スノーリゾートの推進など、現在の取組の継続が冬季観光客の誘致に当たって重要となるため、引き続き取組を継続する必要がある。	観光スポーツ・シティプロモーション部
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		359 (令和5年度)	463	465				

基本目標3 北北海道を舞台にチャレンジするひとや企業を応援し、新たな雇用を創出する

具体的な施策項目		総合戦略における 重要業績評価指標（KPI）			KPIの現状認識		施策評価（案）		担当部
							評価	評価の視点	
ア	地域商社の機能強化と地元企業の海外進出や販路拡大の促進	地域商社の機能を有する団体が推進する販路開拓の取組における商談成約件数（累計数）（件）			実績値は目標に対して、順調に推移しており、令和8年度以降も事業のブラッシュアップを図りながら取組を推進する予定であるため、最終年度目標値についても達成できる見込み。		継続	令和7年度の目標値は達成したものの、人口減少や社会構造の変化に伴う市場環境の変動を踏まえ、引き続き、市場や顧客ニーズを捉えた商品の磨き上げ支援や、商談機会の創出などによる販路拡大支援を継続する必要がある。	経済部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値					
		—	316	454					
イ	先端技術や地域の強みを活用した産業振興	粗付加価値額（万円）			第3期の取組の成果はまだ読み取ることにはできないが、令和5年度の実績値では、基準値に比べ、本市の製造業における粗付加価値額は減少していることから、目標達成に向け、デザイン分野での活動の推進を図るほか、産業支援機関や金融機関、経済団体などとの連携などにより、取組を進める必要がある。		継続 発展	引き続き、デザイン分野での活動の推進を図るほか、産業支援機関や金融機関、経済団体などとの連携などにより、新製品開発や販路拡大支援等の取組を継続する必要がある。	経済部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値					
		8,707,076 （令和3年度）	8,225,920 （令和5年度）	9,812,544					
		アグリビジネス起業数（累計数）（件）			実績値は目標に対して、順調に推移しており、毎年1～2件ほどグリーン・ツーリズム施設認定の実績があることや、今年度においても認定に関する相談を複数受けており、さらに増える見込みがあるため、最終年度目標値についても達成できる見込み。		継続	農業を取り巻く環境は厳しさを増しており、農業の多角化を支援するため、今後も意欲ある農業者の取り組みを支援する必要がある。	農政部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値					
		100 （令和5年度）	101	104					
		農業生産額（百万円）			令和7年度は全国的なコメ不足に伴う米価の高騰により、目標値を達成したが、今後、米価は徐々に適正水準に落ち着くことが予想されるため、農業生産額は減少傾向となる見込みである。 引き続きスマート農業や省力化技術の導入を進め、生産性の向上を図る必要がある。		継続	令和7年度は目標値を達成したが、農業生産額の維持・向上を図るため、スマート農業や省力化技術の導入及び労働力確保への取組は不可欠である。また、農産物のさらなる流通拡大や高付加価値化のため、有機農業の推進や道外への販路開拓などの支援を継続していくことが重要である。	農政部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値					
		13,771 （令和5年度）	16,179	14,900					
		担い手農家への農地集積率（％）			地域農業の将来の在り方を明確化した人・農地プラン（令和7年3月から地域計画）により、担い手農家への農地集積が順調に進んだため、令和7年度時点で目標値を達成した。		継続	担い手農家への集積が進み目標値を上回ったものの、農業者の減少や高齢化が進んでいるため、引き続き担い手確保や、経営継承、経営発展に係る支援を継続する必要がある。	農政部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値					
		93.2 （令和5年度）	95.5	94.8					

ウ	街の産業を支える人材として全ての人が活躍できる環境づくり	新規開業件数(各年度件数)(件)			実績値は、現状値よりも若干少なくなったが、今年度も機運醸成やエコシステム形成に向けた取組を着実に実施しているため、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。	継続 発展	令和7年度からは、企業版ふるさと納税を活用して、若年層に対するアントレプレナーシッププログラムの実施や、各地のスタートアップ支援施策との連携などの取組を進めており、既存の創業支援の取組とともに、起業に対する機運醸成の取組を進める必要がある。	経済部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値				
		249 (令和5年度)	236	291				
		新規就農者数(累計数)(人)			実績値は目標に対して、順調に推移しており、令和8年度就農者が2名、また令和9年度就農予定者が2名いることから、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。	継続	目標値は達成する見込みであるが、農業者は減少しているため、継続的に新規就農者の確保が必要である。	農政部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値				
		68 (令和5年度)	71	72				
		女性就業率(%)			出展元調査の時期等の関係で、現時点では現状値以降のKPIの値が不明であるものの、目標達成に向け、様々な働き方を通して、誰もが働きやすい職場環境づくりの意識醸成を図る取組を着実に進める必要がある。	継続 発展	目標達成に向け、取組を発展、継続する。多様な働き方を通して、誰もが働きやすい職場環境づくりの意識醸成を図る。また、女性活躍に係る啓発事業の充実や法人起業家育成、家事、育児、介護等で稼働できていない女性を対象にしたデジタルスキル獲得のためのセミナーなどにより、女性の就労を後押しする。	こども・女性・若者未来部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値				
		45.2 (令和5年)	45.2 (令和5年)	48.0				
		障がい者の雇用率(%)			令和6年度に、法定雇用率が2.3%から2.5%へ引き上がったことにより、法定雇用義務者数が増加し、同時に対象事業者の範囲が拡大したが、各事業者における障がい者雇用数が増加しなかったため、雇用率が減少し、目標値を達成できなかった。	継続 発展	令和7年度における法定雇用率(2.5%)を若干下回ったため、引き続き、関係機関との連携、農福連携によるマッチング支援等、多様な取組を通じて、障害のある人の活躍推進のため取組を継続していく必要がある。	福祉安心部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値				
		2.71 (令和5年度)	2.43	法定雇用率以上				

基本目標4 安心で魅力ある持続可能な拠点都市を形成する

具体的な施策項目		総合戦略における 重要業績評価指標 (KPI)			施策評価(案)		担当部
					評価	評価の視点	
ア	旭川空港の利用拡大と交通機能の充実	空港乗降客数(各年度人数)(万人)			継続 発展	既存路線の利用促進に加えて、10月から旭川-伊丹便の定期運行が開始するなど、これまでの成果が出てきている。今後も休止している国際線の運航再開や、中部方面の路線拡大などに積極的に取り組むことで、更なる空港利用者数の増加による交流拡大や経済活性化を図ることが重要となる。	都市振興部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値			
		105 (令和5年度)	120	145			
		路線バス・デマンド型交通の市民一人 当たりの年間利用回数(回)			継続 発展	利用者の長期的な減少と乗務員不足の深刻化という2つの課題を踏まえて、令和6年度にこれまでの旭川市地域公共交通網形成計画の見直しを行い、新たに旭川市地域公共交通計画を策定した。今後は、この地域公共交通計画に基づき、持続可能なバス路線の維持、確保に向けた事業を実施していく。	都市振興部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値			
		25.5 (令和5年度)	25.1 (令和6年度)	37.5			
イ	中心市街地の基盤としての機能と 魅力の向上	まちなか居住人口(各年10月1日人 数)(人)			継続 発展	機能集積や賑わいの創出、機能誘導等、引き続き現在の取組を継続することにより、再開発の動きを支援しつつ、様々な人が憩い、交流できる空間づくりなど日常の賑わいにつながる魅力的なエリアづくりを進める必要がある。	都市振興部
		基準値	令和7年度 実績値	令和9年度 目標値			
		9,475 (令和5年度)	9,387	11,000			

ウ	地域主体のまちづくりの充実	地域まちづくり推進協議会の事業・活動に参画した地域住民の人数(各年度人数)(人)	前年度の人数(1,579人)より減少しており、実績値は目標に対して、大きく下回ってはいるが、近年は、学生が参画するイベントが増えるなど地域活動が活発に行われており、また、地縁組織以外の活動団体との連携がさらに進むことにより、増加が見込まれるため、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。			継続	地域まちづくり推進協議会を通じた活動が広がってきたが、地域における認知度や、地域活動の担い手不足などの課題もあることから、引き続き、地域活動を支援し、地域との結びつきを強化していく必要がある。	市民生活部
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		1,710 (令和5年度)	1,507	1,949				
		地域まちづくり推進事業補助金・負担金の交付件数(各年度件数)(件)	実績値は基準値と横ばいではあるものの、近年は、学生が参画するイベントが増えるなど地域活動が活発に行われており、また、地縁組織以外の活動団体との連携がさらに進むことにより、増加が見込まれるため、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。			継続	地域まちづくり推進協議会を通じた活動が広がってきたが、地域における認知度や、地域活動の担い手不足などの課題もあることから、引き続き、地域活動を支援し、地域との結びつきを強化していく必要がある。	
基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値						
67 (令和5年度)	67	75						
エ	北北海道や上川中部圏域との連携促進	北北海道の自治体との連携による取組数(各年度件数)(件)	実績値は目標に対して、順調に推移しており、1年間で1件程度増えていることから、このままのペースであると、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。			継続	引き続き、関係自治体と連携を図りながら、各種課題の解決に向けた取組を進めるとともに、北北海道の拠点都市としての役割をより発揮し、地域力の向上に努める必要がある。	総合政策部
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		40 (令和5年度)	43	46				
		旭川大雪圏域連携中枢都市圏協約に基づく取組数(各年度件数)	実績値は目標に対して、順調に推移しており、令和4年度連携中枢都市圏形成時には、42項目で開始した連携項目について新規就農者等の育成、旭川大雪圏東京事務所を活用したシティプロモーションなど新規項目を追加し、関係町との連携を着実に推進していることから、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。			継続	圏域を構成する市町について互いの独自性を尊重しながら連携を強化し共通する課題の解決と圏域の活力を高めていくための取組を対等の立場で実行するとともに、互いに役割を分担する中で、定住のための機能を高め、豊かで多様なライフスタイルを提案できる魅力あふれる北の地方生活圏の創造に取り組む必要がある。	
基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値						
305 (令和5年度)	322	325						
オ	関係人口の拡大を目指した積極的な情報提供の促進	SNSのフォロワー数(フォロワー)	実績値は目標に対して、順調に推移しており、継続的な情報発信をはじめとする各種取組の実施により、市公式SNS(X、Facebook、LINE、Instagram)のフォロワー数合計は令和6年度から8,488人増加し、KPI達成率は85.4%となった。進捗は概ね順調であり、現在の推移を維持できれば、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。			継続	市公式SNSのフォロワー数は着実に増加しているものの、更なる認知拡大と利用促進を図るため、各媒体の特性に応じた情報発信の強化や、利用者の関心を引くコンテンツの充実など、効果的な運用を継続していく必要がある。	総合政策部
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		65,811	91,217	106,730				
カ 〜 ケ	・防災や雪対策の充実による安全・安心なまちづくりの推進 ・健幸福祉都市の実現に向けた健康づくりの推進 ・ゼロカーボンシティの実現に向けた脱炭素化の推進 ・デジタル技術の導入によるDX化の推進	快適に生活できる環境にあると感じている市民の割合(%)	いずれも、基準値よりは改善が見られるものの、目標値は下回っている。今後も引き続き、総合的な都市の快適性を確保するため取組を継続することにより、最終年度目標値についても概ね達成できる見込み。			継続	今後は、DXの活用を含めた人材確保や関係機関との連携等、防災・雪対策における体制の充実、健幸福祉都市の実現に向けたスマートウェルネスあさひかわプランの推進ゼロカーボンシティの実現など、総合的な都市の快適性を確保するため、着実に取組を進める必要がある。	総合政策部 (土木部) (防災安全部) (健幸福祉部) (環境部) (行財政改革部)
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
		40.6 (令和5年度)	41.4	49.0				
		市役所に対して良い印象を持っている市民の割合(%)						
		基準値	令和7年度実績値	令和9年度目標値				
35.6 (令和5年度)	41.7	50.0						